

ビワ生育情報

第 1 0 報
千葉県農林水産部
令和 6 年 7 月号

本年は、着花房率が平年より高く、寒害の発生は少ない年でした。一方で、果樹カメムシ類による果実への被害が多く、圃場や品種によっては、高温障害(紫斑症や日焼け)や裂果の発生が多くみられました。

また、1、2月及び4月以降の気温が高く推移し、収穫期は平年より早くなりました。

1 本年度産果実の特徴

(1) 収穫期

収穫期を表1に示した。暖地園芸研究所における収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「楠」が5月14日、5月18日、5月24日、「大房」が5月24日、5月29日、6月1日、「田中」が5月27日、5月29日、6月3日であった。収穫盛期は3品種共に平年より8～15日早かった。「楠」、「田中」は前年より2～7日早く、「大房」は1日遅かった。

表1 収穫期(暖地園芸研究所)

品 種	収穫始期(月.日)			収穫盛期(月.日)			収穫終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	5.14	5.27	5.18	5.18	5.31	5.25	5.24	6.4	5.29
大房	5.24	6.1	5.22	5.29	6.6	5.28	6.1	6.9	6.1
田中	5.27	6.9	5.29	5.29	6.13	6.1	6.3	6.17	6.5

平年：平成6年～令和5年の平均

(2) 果実の大きさ及び収穫量

収穫果実の大きさと品質を表2、3に示した。果重は「楠」が49g、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ89g、70gであり、「楠」は平年の95%、「大房」は113%、「田中」は96%であった。

横径は「楠」が4.3cm、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ5.4cm、4.8cmであり、3品種とも平年並みであった。縦径は「楠」は4.8cm、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ5.6cm、5.5cmであり、3品種とも平年並みであった。

果形指数は「楠」が0.90、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.97、0.88であり、3品種とも平年並みであった。

本年は着花房率が平年より高く、寒害の発生は少なかったが、果樹カメムシ類等による被害が前年より多く、圃場や品種によっては、高温障害(紫斑症や日焼け)が多く発生したため、収穫量は前年より少なかった。

(3) 果実品質

糖度は「楠」が13.4、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ10.9、11.6で、「楠」、「田中」は平年より高く、「大房」は平年並みだった。

酸度は「楠」が0.20、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.17、0.34で、「大房」は平年並み、「楠」、「田中」は平年より高かった。

果肉硬度は「楠」が0.52、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.56、0.51で、「楠」、「大房」は平年並み、「田中」は平年より低かった。

糖酸比は「楠」が67、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ66、34で、3品種とも平年より低かった。

(4) 病害虫及び生理障害の発生

本年は、果樹カメムシ類の飛来数及び果実への被害が平年より多かった。また、たてぼや病の発生もみられた。圃場や品種によっては高温障害（紫斑症や日焼け）や裂果が多く発生した。

表2 果実の大きさ

品 種	調査地点	果 重(g)			横 径(cm)			縦 径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大 房	楠 暖地園研	49	52	47	4.3	4.5	4.4	4.8	4.8	4.5	0.90	0.94	0.96
	青 木	77	75	69	5.1	5.2	5.0	5.3	5.3	5.1	0.96	0.98	0.97
	南 無谷	97	78	79	5.5	5.2	5.2	5.7	5.4	5.3	0.97	0.97	0.99
	暖地園研	94	82	83	5.5	5.3	5.4	5.6	5.5	5.4	0.98	0.97	0.99
	平 均	89	79	77	5.4	5.2	5.2	5.6	5.4	5.3	0.97	0.97	0.98
田 中	青 木	63	71	66	4.7	4.9	4.8	5.0	5.4	5.2	0.94	0.92	0.91
	南 無谷	68	71	70	4.7	4.9	5.0	5.5	5.5	5.7	0.85	0.90	0.89
	暖地園研	80	77	77	5.1	5.1	5.0	5.8	5.5	5.6	0.87	0.92	0.90
	平 均	70	73	71	4.8	5.0	4.9	5.5	5.5	5.5	0.88	0.91	0.90

果形指数：横径／縦径

平均：3地区の平均値で平年値は平成6年～令和5年の平均

表3 果実品質

品 種	調査地点	糖度(Brix%)			酸度(g/100ml)			硬 度(kg)			糖酸比		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大 房	楠 暖地園研	13.4	12.5	12.9	0.20	0.15	0.16	0.52	0.52	0.49	67	90	81
	青 木	11.0	10.9	11.4	0.19	0.15	0.14	0.57	0.56	0.56	59	78	84
	南 無谷	10.5	10.8	12.1	0.15	0.17	0.14	0.54	0.57	0.56	69	69	89
	暖地園研	11.2	11.4	11.4	0.16	0.19	0.25	0.56	0.58	0.54	69	64	46
	平 均	10.9	11.0	11.6	0.17	0.17	0.17	0.56	0.57	0.55	66	70	73
田 中	青 木	11.2	11.2	11.4	0.30	0.31	0.43	0.47	0.55	0.52	37	40	26
	南 無谷	11.0	10.5	11.7	0.36	0.31	0.32	0.53	0.56	0.54	30	35	37
	暖地園研	12.6	11.9	11.7	0.36	0.30	0.39	0.53	0.56	0.52	35	42	30
	平 均	11.6	11.2	11.6	0.34	0.31	0.38	0.51	0.56	0.53	34	39	31

糖度：屈折糖度計の測定値、酸度：果汁100ml中の酸含量をリンゴ酸(g)に換算した値

硬度：果実硬度計による測定値、糖酸比：糖度／酸度

平均：3地区の平均値で平年値は平成6年～令和5年の平均(ただし硬度は平成12年～令和5年の平均)

2 最近1年間の気象及びビワの生育状況

令和5年7月～令和6年6月までの月別の気象を表4に示した。年平均気温は17.8℃で、平年より1.6℃高く、前年より0.6℃高かった。降水量は年合計1,949mmで、平年の105%、前年の122%であった。日照時間は年合計が2,337時間で、平年の117%、前年の113%であった。

花房の出蕾期は平年より早く、11、12月の平均気温が平年より高く推移したため、開花は平年より早く進んだ。また、1、2月及び4月以降の気温が高く推移したことから、収穫期は平年より早かった。

表4 令和5年7月～令和6年6月の気象（アメダス館山市）

年	月	気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
R5	7	26.8	25.2	26.6	49	179	198	274	179	189
	8	28.5	26.7	27.2	113	103	94	279	216	206
	9	26.7	23.7	24.9	298	222	139	192	153	158
	10	18.8	18.6	18.0	200	258	128	202	137	145
	11	15.5	13.7	15.3	84	144	130	176	147	163
	12	10.4	8.9	8.4	46	91	89	198	164	179
R6	1	8.6	6.4	6.3	29	86	47	197	177	162
	2	9.1	7.0	8.4	106	82	130	133	155	151
	3	10.5	10.1	13.2	258	161	148	185	165	170
	4	16.6	14.5	16.5	184	156	135	133	179	207
	5	19.4	18.5	19.0	228	153	145	179	188	206
	6	22.6	21.6	22.7	356	215	220	190	135	129
平均/計		17.8	16.2	17.2	1,949	1,849	1,600	2,337	1,993	2,064

平年：1991～2020年までの平均

8月～10月の作業

8月下旬～9月下旬はせん定及び施肥の時期となる。花芽は9月中旬頃には確認できるようになる。10月に入ると発育が進み、花房の形を表し、10月上中旬には摘房・摘らいの作業が始まる。

(1)せん定

8月下旬～9月下旬に行う。徒長枝や混んでいる枝を間引いて、樹冠内部に光が入るようにする。作業の効率化を図るため、二段盃状形の樹形を目指し、低樹高化に努める。

(2)施肥

9月に基肥を施用して花房の伸長、充実を図る。耕土の浅い園では10a当たり成分量で窒素12kg、リン酸9kg、加里9kgを施用し、耕土の深い園では窒素11kg、リン酸9kg、加里7kgとやや少なめにする。

(3)摘房・摘らい

摘房は発育不良の花房や混み合った花房を間引き、1樹の全枝の約60%に花房を残す。

摘らいは花房基部から3段目までの小花梗の中から充実した2段を残して他をかき取る。花房の長さが3～5cmの時に摘らいすることで、開花期間を延長させ、寒害の被害を受けにくくすることができる。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室

電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>